

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【豊根村立豊根小学校】

1 実践テーマ	【 I・III 】
2 実施対象者	豊根小学校 全校児童 31名 1年4名 2年4名 3年1名 4年10名 5年6名 6年6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育) ② 行事名 (豊川特別支援学校との交流会) ③ その他 (朝の活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの歴史や理念を知り、東京オリンピック・パラリンピックに対して興味関心を高める。 ・ともに体を動かす活動を通じて豊川特別支援学校の児童と関わりを深め、共生の態度を養う。
5 取組内容	<p>【オリンピックについて】 11月26・28日朝の活動時間（8時15分～30分）に Tokyo 2020 for KIDS サイトを活用し、オリンピックの歴史や日程について知り、競技について学習した。子どもたちが知っている競技を全校縦割り班で出し合い、共有した。</p> <p>【パラリンピックについて】 12月3・5・10・12・17・19日朝の活動時間（8時15分～30分）に Tokyo 2020 for KIDS サイト、I'm POSSIBLE「パラリンピックで何だろう」を活用し、パラリンピックの歴史や日程、競技内容について学習した。競技について、子どもたちが知っている競技</p>



	<p>を全校縦割り班で考えてから全体で共有した。I'm POSSIBLE「クイズで知ろうパラリンピックスポーツ」では、サポートする伴走者に注目した。12月16日には、日本福祉大学スポーツ科学部安藤佳代子先生を講師として招き、ガイドランナー体験会を行った。その後I'm POSSIBLEを活用して「パラリンピアンを紹介しよう」「Tokyo2020パラリンピックを楽しもう」より、東京2020オリンピックが未来に残せる物について学習を深めた。</p> <p>【豊川特別支援学校と交流会】 10月29日に豊川特別支援学校との交流会を行った。合唱、和太鼓を発表した。また、交流活動として、ダンスやジャンケン、汽車ポッポ、ボール投げ投げゲームなど、一緒に体を動かす活動を行った。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>オリンピック・パラリンピック競技について学習したことで、パラリンピックで使われる道具を見るだけで、競技名を答えることができるようになった。豊川特別支援学校の児童との交流やガイドランナー体験を通して、障がいの有無に関わらず互いに歩み寄り、相手を理解しようとすることの大切さを学んだ。共生社会を目指すための様々な人との関わり方を考えることができた。</p> <p>【児童の感想より（一部抜粋）】 <豊川特別支援学校との交流会> パプリカを歌ったとき、手びょうしや踊ってくれた子がいて、嬉しかったです。ゲームはみんな楽しくできたのでよかったです。また行くのが楽しみです。（3年） 私は豊川特別支援学校の訪問が初めてで、どう接するとよいのか、少し不安な気持ちを持ちながら行きました。会話では、わからないことも時々ありました。太鼓の発表後、支援学校の子たちと太鼓を一緒に叩いたり、話をしていたら楽しかったです。やさしく思いやりをもって助けながら、接することが大切だと思いました。（5年） <ガイドランナー体験会> 私は、目かくしをしたとき、大変だなと思いました。目が見えないまま、走ったりするのがびっくりしました。（1年） ぼくは、目が見えない人の気持ちを考えられたのでよかったです。パラリンピックの競技に出る人は、歩くだけでも怖いのに、怖がらず走っていてすごいと思いました。（2年） 私は体験をして、障がいのある人の気持ちがわかった気がします。わたしは前まで、障がいのある人は怖いと思っていたけど、障がいのある人はなりたくてなっているわけではないので、これからは障がいのある人の気持ちを考えていきたいです。（4年） 視覚障がいがある人の気持ちになって、大変さがわかりました。もし視覚障がいの人が困っていたら、「右に曲がりますよ」「でこぼこだから気をつけてください」と細かく伝えてあげたいです。（6年） <学習を終えて> パラリンピックの選手は障がいをもっているのに、競技ができるのはすごいと思いました。私だったら、勇気がないので、できない</p>

	<p>と思いました。私はオリンピックやパラリンピックに興味をもって、応援したくなりました。(4年)</p> <p>私は今まで障がいがある人とあまり関わることはありませんでした。パラリンピックの勉強をして、体が不自由でもあきらめずに強い意志をもって、世界に立ち向かうのはすごいと思いました。これからは、相手の気持ちを考えて、人の差別を減らしていきたいです。(4年)</p> <p>パラリンピックは、いろいろな人が公平に勝負できるように、道具が工夫されていてすごいと思いました。共生社会という言葉聞いて、大切にしたいと思いました。学校でもスポーツが得意な人や苦手な人など、いろいろな人がいるので、いろいろな人がみんな活躍できることを大切にしたいです。(5年)</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>人口の少ない豊根村の中では、様々な障がいのある人を見かけることや関わるのが少ない。そんな豊根村の子どもたちが、将来、社会に出ていくとき、障がいの有無に関わらず相手を受け入れることができるよう、パラリンピックについての学習に重点を置き、多様性に触れることができる学習内容を設定した。</p>
8主な課題等	<p>オリンピック・パラリンピックに関わる人材をどのように探せばよいのか。また、パラリンピック競技でも使用される道具がないために体験ができなかった。ゴールボールやボッチャなど、実際の用具を購入できる予算をとることが課題であった。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>隔年での豊川特別支援学校との交流会を引き続き実施していく予定である。体育の学習でも、パラリンピック競技に触れるなど、オリンピック・パラリンピックの精神に関わる内容に触れるようにする。</p>